


事例4【高次脳機能障害の方】

	氏名・年齢	Dさん・50代	利用した期間	1年10か月
	障害	くも膜下出血による 高次脳機能障害 (精神保健福祉手帳 3級)	障害特性	新しいことを覚えたり、ミスに気づいたりするのが難しい。
	利用までの経緯	<ul style="list-style-type: none"> 接客の仕事で、くも膜下出血を発症。 病院で入院治療。 退院後、入所施設を利用しながら自立訓練（生活訓練）で記憶力、注意力などの改善のためのリハビリを行う。 日常生活は問題ないが、仕事となると不安なので、就労移行支援で訓練して就職を目指していくこととなった。 		

「自立訓練（生活訓練）」ではどのようなことをしましたか？

身体に大きな麻痺などの障害は残らなかったのですが、「新しいことを覚えられない」「ミスに気が付かない」「段取りができない」「体力がない」「集中力が続かない」などの、【高次脳機能障害】が残りました。生活訓練では、脳トレのプリント、外出や調理の計画と実行、農作業などを通して、能力の向上や適切なメモを取るなど、自分でできる代償手段の獲得を目指しました。

今の職場が決まるまでのことを教えてください

最初はパソコンを学んで事務の仕事を、とも考えていましたが、今までほとんど使ったことがなく、新しいことを覚えるのは難しかったのでやめました。次に、もともと人と接することが好きだったので、それを生かせる接客業はどうかと考えました。しかし、いきなり人と接するのは責任が重く、負担が大きいということで、まずは自分ができる作業的な仕事で考えました。

近くのうどん屋さんで、障害者就業・生活支援センターの実習制度である「短期職場実習」を経て、さらに雇用を前提としたハローワークの実習制度である「トライアル雇用」を経て、採用につながりました。

今の状況を教えてください

就業当初は裏の工場では冷凍うどんをつくる際、麺をカップからはずす作業を行っていましたが、笑顔で明るく元気に仕事を頑張っているうちに認めていただき、今は直接店舗でお客様と接しながら洗い物などを行う担当に変わりました。

これからお仕事をめざす方に一言お願いします

高次脳機能障害は、自分では「できている」と思っていることが「実はできていない」ことも多く、周りに教えてもらいながら少しずつ自分の状況がわかるようになりました。障害を受け入れるのは辛く、大変ですが、自分の課題が分かってからが就職活動のスタートです。次のステップに進むためにも、様々な方に相談しながら頑張ってください。